

# 流山市国民健康保険 事業財政健全化計画

## 中間評価 (中間見直し)



## 1. 計画策定の背景・目的

- 国民健康保険は、日本の社会保障制度の中核である国民皆保険制度を支える重要な基盤であるが、年齢構成が高いこと等により医療費水準が高いことや、所得に占める保険料負担が重いといった構造的な問題を抱えている。
- こうした問題に対応し、国民健康保険を引き続き持続可能な制度としていくため、法改正により平成30年度から県が財政運営の責任主体となるとともに、公費の拡充が行われた（＝国民健康保険の広域化）。
- このような制度改正が行われている一方で、市町村によっては、かねてより、形式的な財政収支の均衡を図るために、決算補填のための一般会計からの法定外繰入を行っており、流山市においても2019年度当初予算ベースで約3億円の決算補填のための法定外繰入を計上していた。
- これに対し、2017年12月に千葉県が策定した「千葉県国民健康保険運営方針」において、「**決算補填等を目的とした法定外一般会計繰入は、保険給付と保険料負担の関係性が不明瞭となること、また、被保険者以外の住民に負担を求めることとなることなどから、解消・削減を図るべきである**」とされ、「市町村は、決算補填等を目的とした法定外一般会計繰入について、その必要性や妥当性等を改めて整理・検討した上で、保険料収納率の向上、医療費適正化の取組等の推進や県が提示する標準保険料率を参考に適正な保険料率を設定すること等により、住民の理解を得ながら、計画的な解消・削減に努める」こととされた。
- こうした背景の下、具体的な対策や方向性等を整理した流山市国民健康保険事業財政健全化計画を策定し、流山市国民健康保険運営協議会の諮問・答申を経たところである。

### 一般会計からの繰入理由

- ◆ 保険料の収納不足に充てるため
- ◆ 医療費の増加に対応するため
- ◆ 保険料の負担緩和を図るため
- ◆ 地方単独の保険料軽減に充てるため 等
- ◆ 条例に基づく保険料の減免に充てるため
- ◆ 保健事業費に充てるため 等

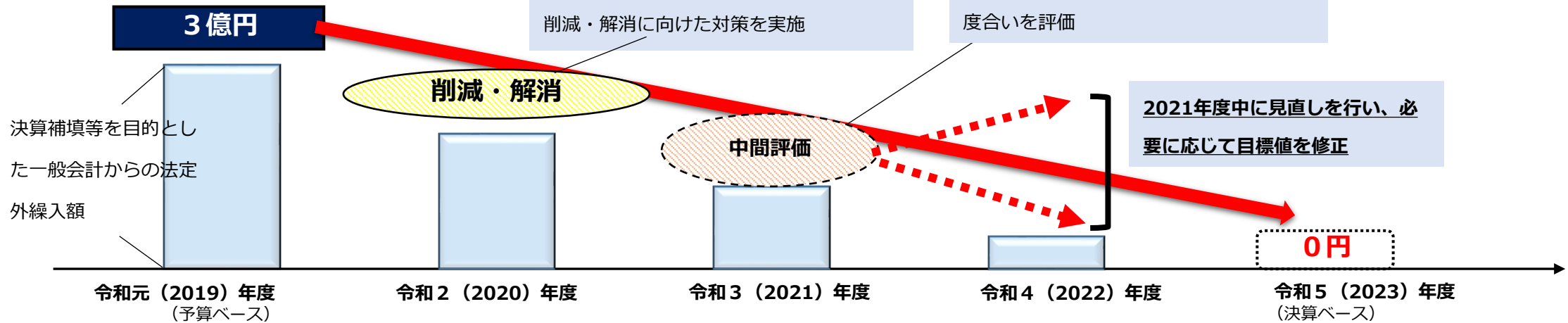
「決算補填等を目的とした法定外一般会計繰入（＝赤字）」に該当するため、**削減・解消の対象となる。**

決算補填等を目的とした法定外一般会計繰入には該当しないため、**削減・解消の対象とならない。**

## 2. 計画期間

- 平成31（2019）年4月から令和6（2024）年3月までの**5か年計画**とする（年度＝令和元年度～令和5年度）。
- ただし、令和3（2021）年度中に中間評価を行うこととし、必要に応じて計画の見直しを図ることとする。

## 3. 削減・解消すべき赤字額



### 計画策定時の中間評価（中間見直し）の位置付け

- 「決算補填等を目的とした法定外繰入」の令和元（2019）年度当初予算額である**3億円**を削減・解消すべき赤字額と設定し、当該繰入が**令和5（2023）年度決算において解消**されることを目標とする。
- ただし、**今後の事業費納付金の規模が不透明**であり、推計値への影響度合いも強いことから、中間年である**令和3（2021）年度中に見直し**を図り、必要に応じて削減・解消すべき赤字額の時点修正を図る。

留意

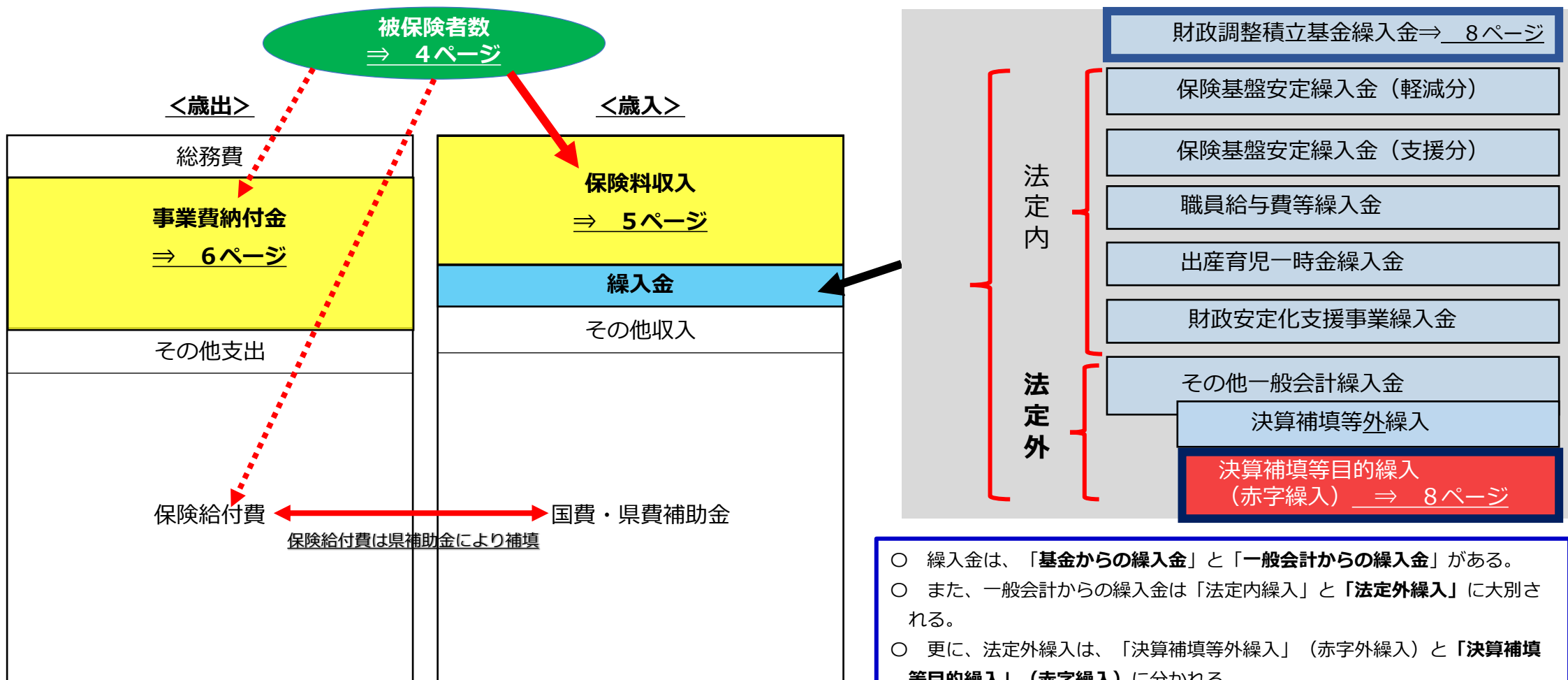
### 計画策定後の市国保運営を取り巻く環境の変化

- **新型コロナウイルス感染症の影響**  
⇒ 会社都合等の事由で退職する方が急増した。
- **新たな法律の施行（令和6年4月1日施行）**  
⇒ 国は「全世代対応型の社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律」を令和3年6月11日に公布し、都道府県国民健康保険運営方針について、**保険料の水準の平準化や財政の均衡に関して記載事項に位置付けること**となった。
- **千葉県国民健康保険運営方針の中間見直し（令和3年3月）**  
⇒ 「保険料水準のあり方を引き続き検討」から一歩進めて、**将来的な保険料水準の統一について、市町村等との本格的な議論を今後深めていくことを明確化。**

## 4. 市国民健康保険の財政構造

- 国民健康保険は、法令上、一般会計と区分して特別会計を設けて経理しなければならないとされていることから、その事業については、法令で認められているものを除き、独立採算で行われることが原則。
- 具体的には、必要な歳出として求められる事業費納付金等に見合った保険料収入等を確保する必要がある。
- なお、保険給付費については、全額県の補助金により賄われるため、直接的に収支に影響は及ぼさない。

※ 保険給付費は、事業費納付金の算定上、本市の医療費水準により加減算されるため、間接的には収支に影響を及ぼす。



- 繰入金は、「基金からの繰入金」と「一般会計からの繰入金」がある。
- また、一般会計からの繰入金は「法定内繰入金」と「法定外繰入金」に大別される。
- 更に、法定外繰入金は、「決算補填等外繰入金」（赤字外繰入金）と「決算補填等目的繰入金」（赤字繰入金）に分かれる。

## 5. 市国民健康保険の財政の現状と分析

### （1）被保険者数 ⇒ 保険料収入などに影響

#### ➤ 被保険者数の実績と今後の見込み（年度平均）

単位：人

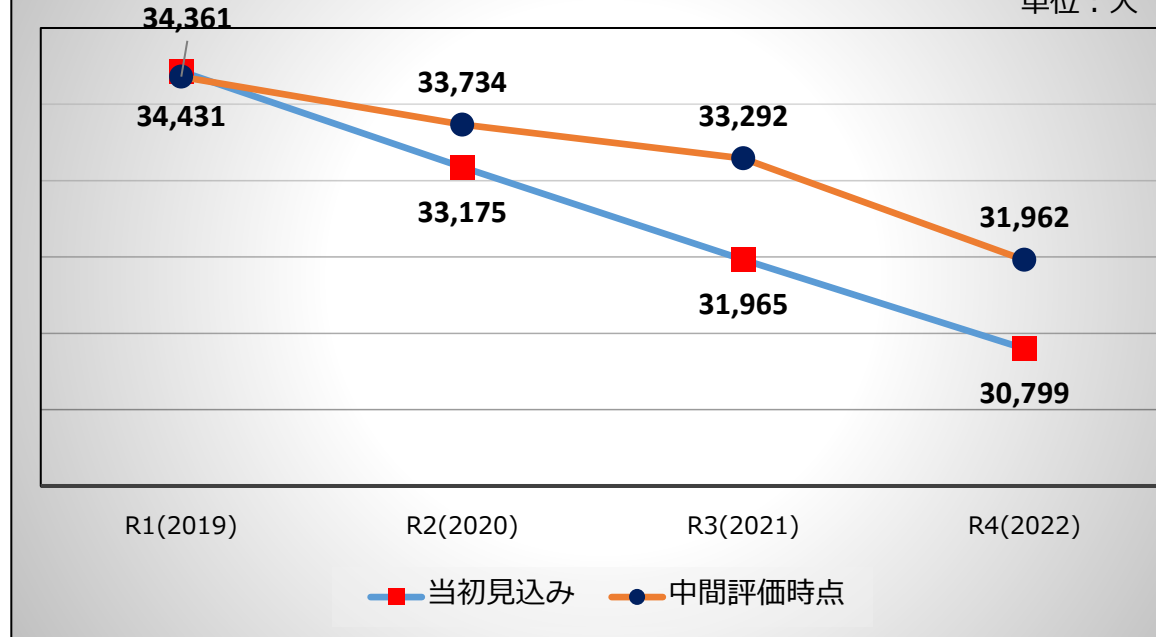
	R1 (2019) 年度	R2 (2020) 年度	R3 (2021) 年度	R4 (2022) 年度
① 当初の見込み	34,431	33,175	31,965	30,799
② 中間評価時点	34,361 (実績)	33,734 (実績)	33,292 (見込)	31,962 (見込)
① ⇒ ②	△70	+559	+1,327	+1,163

※ R3見込みについては、R4予算案策定時のR3推計値。

※ R4見込みについては、R4予算案策定時の推計値。

被保険者数の実績と今後の見込み（年度平均）

単位：人



#### これまでの実績について

- 被保険者数については、令和元年度は当初見込みと実績に概ね差がないものの、**令和2年度は新型コロナウイルスの影響による雇用環境の変化によって、当初見込みほど被保険者数が減少しなかった。**

#### 今後の見込みについて

- 令和3年度については、新型コロナウイルスの影響による雇用環境の変化によって、当初見込みほど被保険者数が減少しないと見込まれる。
- 令和4年度以降は、**令和4年10月からの被用者保険の適用拡大や後期高齢者医療制度への移行により被保険者数が大幅に減少するものの、当初見込みと比べ、被保険者数は高位にあるものと見込まれる。**

## （２）保険料収納額 ⇒ 歳入の根幹であり、財政収支に影響

### ▶ 保険料収納額の実績と今後の見込み

単位：千円

	R1 (2019) 年度	R2 (2020) 年度	R3 (2021) 年度	R4 (2022) 年度
① 当初の見込み	3,402,333	3,258,510	3,139,662	3,025,135
② 中間評価時点	3,449,284 (実績)	3,400,349 (実績)	3,056,385 (見込)	3,146,378 (見込)
① ⇒ ②	+46,951	+141,839	△83,277	+121,243

【参考】

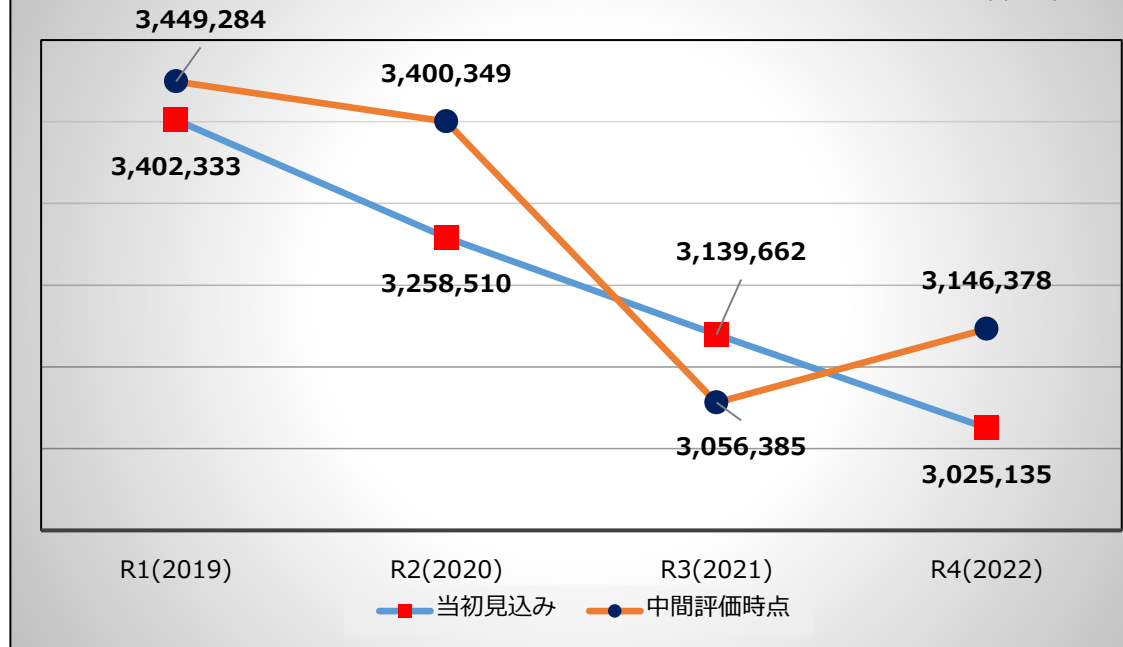
単位：%

収納率 (現年度分)	93.31 (実績)	94.65 (実績)	92.16 (見込)	92.59 (見込)
------------	------------	------------	------------	------------

- ※ R3見込みについては、R3当初予算値。
- ※ R4見込みについては、R4当初予算値。

### 保険料収納額の実績と今後の見込み

単位：千円



### これまでの実績について

- 保険料収納額については、県内トップクラスの収納率であったこともあり、**令和元・2年度共に当初見込みを上回った。**
- **令和2年度は新型コロナウイルスの影響による雇用環境の変化によって、被保険者数の減少幅が緩やかになったこともあり、保険料収納額が当初見込みより大幅に増えたもの**と考えられる。

### 今後の見込みについて

- 令和3年度については、**令和3年度保険料の算定基礎となる令和2年所得が新型コロナウイルスの影響による雇用環境の変化により減少し、保険料収納額も当初見込みより減少するもの**と想定していたが、**被保険者数の減少幅が緩やかになったこともあり、令和3年度実績確定時には、当初見込みを上回る可能性がある。**
- 令和4年度以降は、**令和4年10月からの被用者保険の適用拡大や後期高齢者医療制度への移行により被保険者数が大幅に減少するものの、当初見込みと比べ、保険料収納額は高位にあるものと見込まれる。**

## （3）事業費納付金 ⇒ 歳出の根幹であり、財政収支に影響

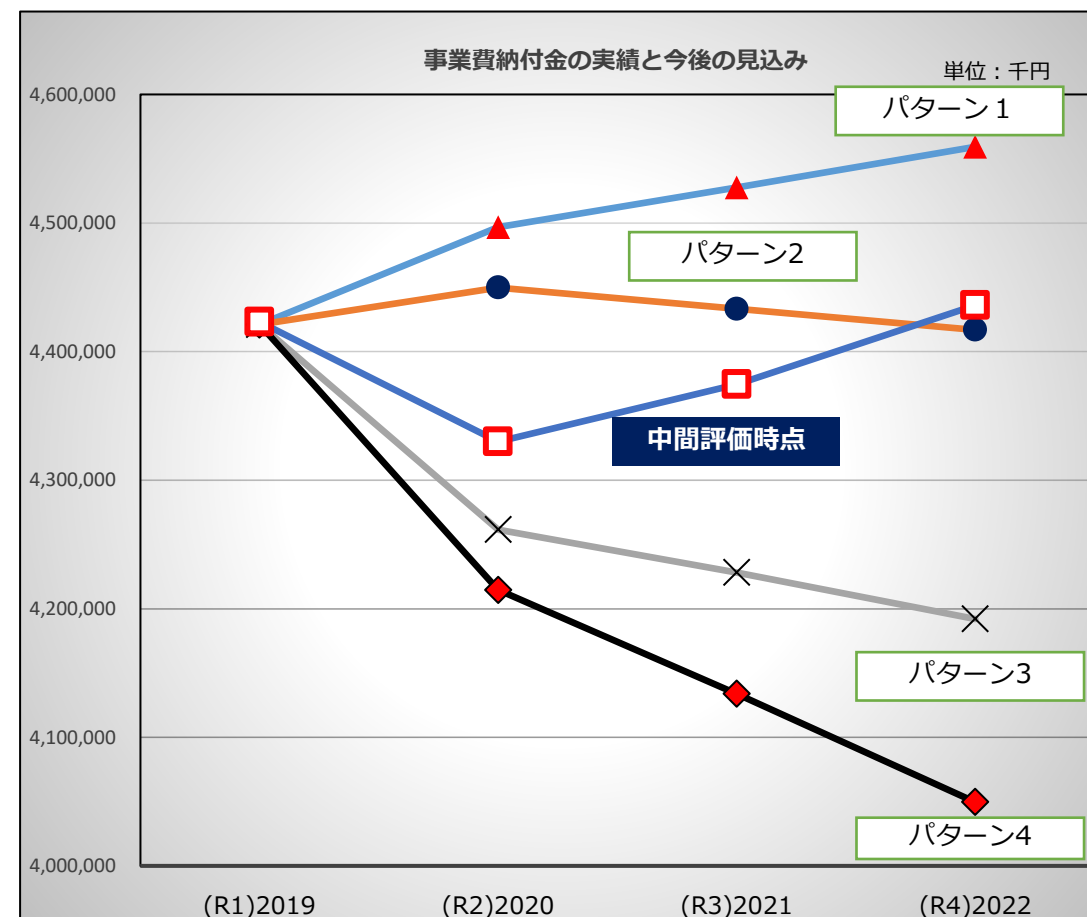
### 事業費納付金の実績と今後の見込み

単位：千円

		R1 (2019) 年度	R2 (2020) 年度	R3 (2021) 年度	R4 (2022) 年度
当初見込	①パターン1	4,421,052	4,496,707	4,527,684	4,559,308
	②パターン2	4,421,052	4,449,777	4,433,315	4,416,987
	③パターン3	4,421,052	4,261,552	4,228,289	4,192,078
	④パターン4	4,421,052	4,214,622	4,133,920	4,049,756
⑤中間評価時点		4,423,125 (実績)	4,329,899 (実績)	4,374,518 (実績)	4,436,144 (見込)
差	① ⇒ ⑤	+2,073	△166,808	△153,165	△123,164
	② ⇒ ⑤	+2,073	△119,878	△58,797	+19,157
	③ ⇒ ⑤	+2,073	+68,347	+146,229	+244,066
	④ ⇒ ⑤	+2,073	+115,277	+240,598	+386,388

※ ⑤についてR1~R3は、確定係数の数値。

※ R4見込みについては、R4予算案策定時の県から示された仮係数の数値。=R4当初予算値



### これまでの実績について

- 令和元年度から令和3年度実績の事業費納付金については、**県が提示した高位から低位の4パターンの推計値（当初見込み）の中間を推移している。**

### 今後の見込みについて

- 令和4年度の事業費納付金は、**県が提示した高位から低位の4パターンの推計値のうち、高位推計の一つであるパターン2を超える見込みである。**
- 事業費納付金は、本市の医療費水準や所得水準のほか他市町村の医療費水準や所得水準の影響等を受けること、**新型コロナウイルスが事業費納付金の今後の算定にどのような影響を及ぼすのか不透明なため、引き続き動向を注視する必要がある。**

## （４）財政収支に影響を与える被保険者数、保険料収入、事業費納付金の傾向について

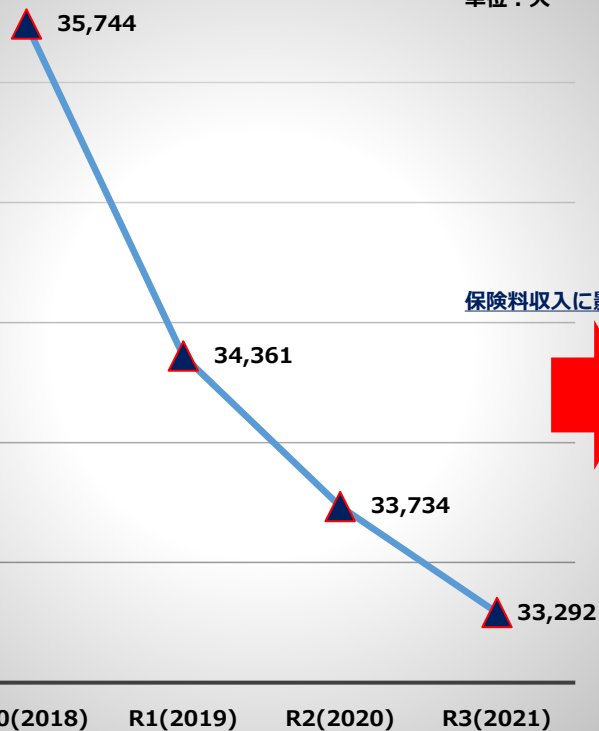
### ➤ 県広域化後の実績（一部見込額）

	H30（2018）年度		R1（2019）年度		R2（2020）年度		R3（2021）年度	
	実績額	対前年	実績額	対前年	実績額	対前年	見込額	対前年
被保険者数 （人）	35,744	—	34,361	△1,383	33,734	△627	33,292	△442
保険料収納額 （千円）	3,626,927	—	3,449,284	△177,643	3,400,349	△48,935	3,056,385	△343,964
事業費納付金 （千円）	4,349,750	—	4,423,125	+73,375	4,329,899	△93,226	4,374,518	+44,619

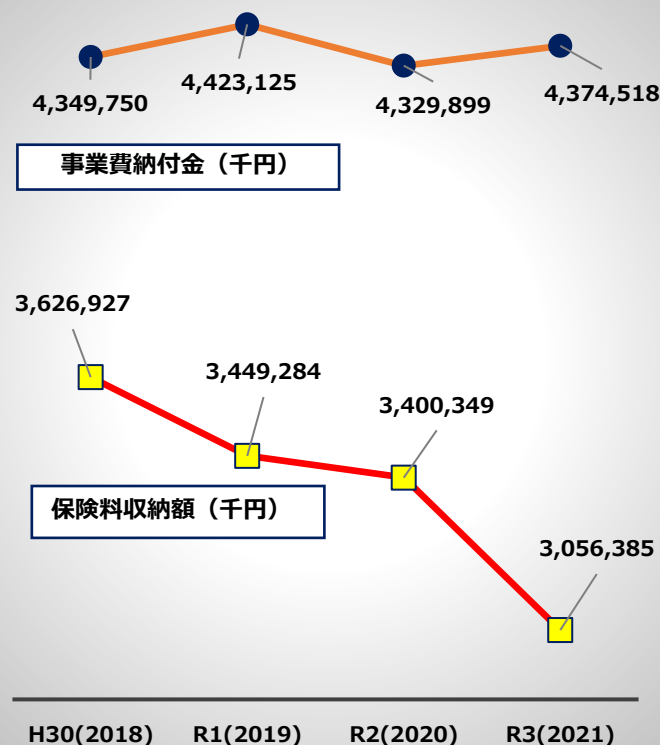
※ 保険料収納額のR3見込みについては、新型コロナウイルスの影響による減少分が含まれている。

### 被保険者数の推移

単位：人



### 保険料収入、事業費納付金の推移



### 被保険者数、保険料収入、事業費納付金の傾向

- 被保険者数はこの4年間で約2,500人程度減となっている。
- 被保険者数の減の影響もあり、保険料収納額については、年々減少しているものの、事業費納付金については高止まりが続いている。
- 事業費納付金については、後期高齢者医療制度と介護保険制度を支えるために、県全体で必要となる後期高齢者支援金分と介護分が高齢化の影響で年々増加しており、各市の所得水準と被保険者数で按分される流山市の当該納付金が増えている構図である。
- 被保険者数の減少により保険料収納額が減少する一方で、事業費納付金が高止まりしている現在の状況は、今後も継続するものと考えられ、保険料収納額の減少分がそのまま赤字になる。



## （５）決算補填等を目的とした法定外一般会計繰入（＝赤字）と財政調整積立基金

➤ 決算補填等を目的とした法定外一般会計繰入（＝赤字）実績と今後の見込み 単位：千円

	R1 (2019) 年度 (実績)	R2 (2020) 年度 (実績)	R3 (2021) 年度 (見込)	R4 (2022) 年度 (見込)
① 歳入	14,841,683	14,625,589	15,193,330	15,391,536
<b>内：赤字分</b>	<b>304,108</b>	<b>333,250</b>	<b>316,062</b>	<b>493,000</b>
② 歳出	14,766,261	14,439,746	15,193,330	15,391,536
収支 (①－②)	+75,422	+185,843	0	0

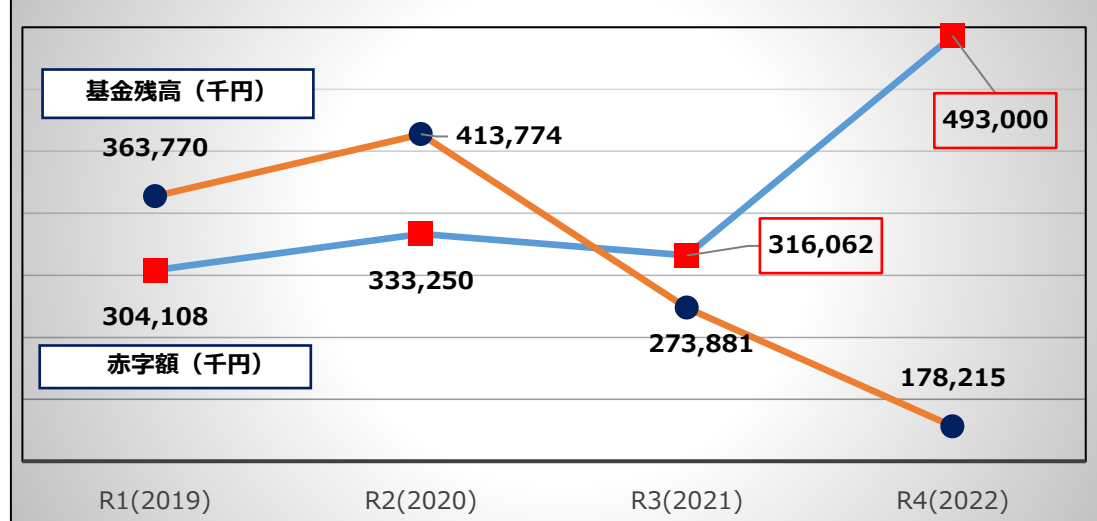
※ R3見込みの歳入、歳出、赤字分は、**3月補正予算後の額を記載。**

※ R4見込みの歳入、歳出、赤字分は、**R4当初予算値。**

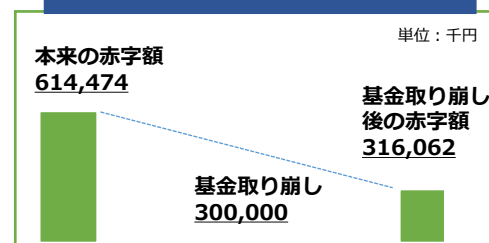
➤ 財政調整積立基金の実績と今後の見込み 単位：千円

			R1 (2019) 年度 (実績)	R2 (2020) 年度 (実績)	R3 (2021) 年度 (見込)	R4 (2022) 年度 (見込)
前年度末残高			163,741	363,770	413,774	273,881
年度中増減	元金	増加	200,000	50,000	160,000	0
		減少	0	0	<b>300,000</b>	95,667
	利子	増加	29	4	107	1
		減少	0	0	0	0
年度末残高			363,770	413,774	273,881	178,215

赤字額及び基金残高の実績と今後の見込み 単位：千円



R3 (2021) 年度の赤字額について



R4 (2022) 年度の赤字額について



### これまでの実績について

- 赤字繰入については、**被保険者数の減少により保険料収納額が減少する一方で、事業費納付金の高止まりが続いているため、計画策定時に設定した解消すべき赤字額の3億円を常に上回っている。**
- 財政調整積立基金は、各年度決算時に発生した余剰額に応じて積み立てている。

### 今後の見込みについて

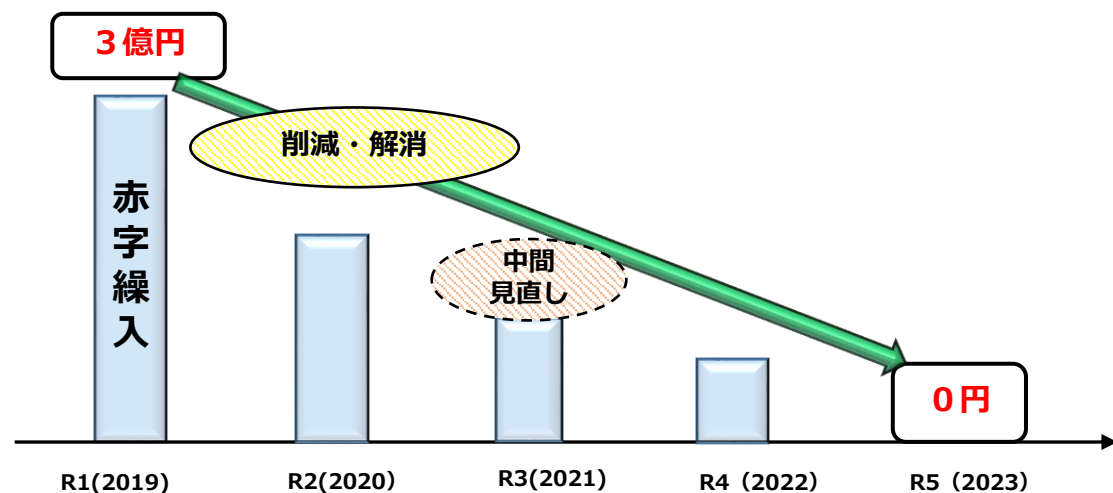
- 赤字繰入については、**被保険者数の減少により保険料収納額が減少する一方で、事業費納付金が高止まりする傾向は、今後も継続するものと考えられ、引き続き3億円を上回る赤字額が見込まれる。**
- 財政調整積立基金について、令和3年度は赤字繰入を3億円程度に維持するため、3億円取り崩す予定であるが、**財政収支の状況次第では、取り崩し幅が変わる可能性があり、この取り崩し幅によって、令和4年度以降の赤字繰入に大きな影響を及ぼす可能性がある。**

## 6. 中間見直しについて

- 現計画では、「決算補填等を目的とした法定外繰入」の令和元（2019）年度当初予算額である**3億円**を削減・解消すべき赤字繰入と設定し、当該繰入が**令和5（2023）年度決算において解消**されることを目標としているが、**計画期間の初年度から常に赤字繰入が3億円を上回っている。**
- 赤字繰入が発生している原因としては、**被保険者数の減少により保険料収納額が減少しているにもかかわらず事業費納付金が高止まりしているため、保険料収納額の減少分がそのまま赤字繰入になっていることが考えられる。**この傾向が今後も続くことが見込まれる中、赤字繰入を解消する手段としては、「**保険料率の改正**」が挙げられる。
- しかし、**新型コロナウイルスの影響による雇用環境の変化が、被保険者及び市国民健康保険財政にどのような影響を及ぼすのか不透明な状況の中、**現計画期間中に**被保険者の直接的な負担となる「保険料率の改正」を実施することは困難な状況**であると考える。
- このことから、**現計画期間中の赤字繰入については、財政調整積立基金を弾力的に活用しながら、「削減」を目指すこととし、赤字繰入「解消」の方向性については、令和6年度を始期とした次期財政健全化計画を策定する際に検討していきたい。**

※ 今後の社会経済情勢によって変更となる可能性があります。

現計画（中間見直し前）



現 財政健全化計画 見直し後

